

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	楽育楽座		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 17日		～ 2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童が自ら通所を楽しみにしていること。	・児童の年齢に合わせたカリキュラム内容への変更等の工夫や、飽きずに取り組めるよう内容全体を定期的にチームで協議し、反映させている。	・移り変わる児童のニーズや保護者ニーズを常に汲み取る姿勢を維持し、今後もチームで児童が自主的に取り組める活動内容(日々の療育やイベント等)を工夫していく。
2	活動スペースが広々としていること。	・実施カリキュラムに応じて、児童が過ごしやすいようスペースの配置を変える等の工夫を行っている。 ・余暇時間(自由時間)の際に、静の遊びと動の遊びを好むお子様に合わせて、活動スペースを区切ることで、怪我等のリスクを最小限に抑えている。	・定期的に現環境でのヒアリングを行い、それをチームとして協議し、より活動スペースの確保ができるよう努めている。(余暇時間などの児童の動線の工夫など)
3	その日の様子を送迎時に細かくフィードバックしていること。	・文字(支援記録)では伝えきれないような内容を優先的に報告し、限られた時間の中ですべてがお伝えできるよう、起承転結を意識して行っている。	・今後は日々の児童の評価(評価点と課題点)をもとに、現状の個別支援計画に基づいた支援方法の提案や対策までお伝えできるようにしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現状、保育所や認定こども園、幼稚園等の交流または障害のない子どもと活動する機会が設けられていない。	・近隣の保育園や幼稚園等との交流の機会が一切ない。	・地域交流の一環として、近隣の園との交流会イベントや地域イベントに参加するなど、今後の実現に向けて前向きに考えていきたい。
2	必要に応じて家族支援を行っているが、そのような支援があるという選択肢が広く保護者に伝達できていない。	・利用者の状況やニーズに応じて事業所対応という流れはすでに行っているが、家族支援(ペアレントトレーニング等)の選択肢があるということは全体発信できていない。	・今後はLINEなどの発信ツールを使用し、必要に応じて家族支援(育児相談も含む)を適宜行えるよう体制を整えていきたい。
3	避難訓練は定期的に計画し行っているが、新しくご利用を開始された方の中には、実際に参加されたことがなくそのような事が実施されているということが認知されていない。	・契約時の説明の中に組み込んでご説明しているが、避難訓練という内容がその他諸々の情報に重なってしまい、定期的に実施しているという体制が伝わりづらいのではないかと考える。	・年間予定や月間予定で避難訓練計画を発信し、事業所としてそのような取り組みも行っていることを幅広く認知して頂きたいと思う。